

# 豊田喜一郎の強い意志



世界初の量産HV「プリウス」を1997年に発売

## 自ら良品廉価な乗用車を

豊田喜一郎の自動車にかけた情熱を継承し成長してきたトヨタ自動車。多くの逆境を乗り越え、2013年度には世界の自動車メーカーで初めて年間販売1000万台の大台を超えた。創業以来、まさに一台一台の販売を積み重ねてきた結果だ。そして今「もっといいクルマをつくらうよ」という原点回帰とも言えるかけ声の下、持続的成長に向け新たな一歩を踏み出そうとしている。

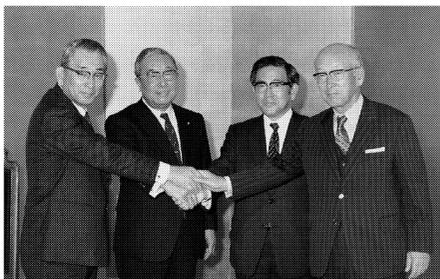
1937年(昭12)8月28日。豊田自動織機製作所(現豊田自動織機)の自動車部が独立してトヨタ自動車工業(現トヨタ自動車)が発足した。翌38年11月3日には挙母工場(愛知県豊田市、現本社工場)の操業をはじめ、喜一郎の夢だった国産車の量産が現実のものとなった。

「自らの手で良品廉価な乗用車をつくりたい」。そんな喜一郎の思いは52年にわたってあとも受け継がれる。日本のほかの自動車メーカーが不足する技術を持つため欧米メーカーとの提携を進める中にも、トヨタは自力での国産車開発にこだわった。

その努力が結実したのが55年に発売した日本初の本格的乗用車「クラウン」だ。日本の道路に適合したスタンダード・セダンとして国産車の信頼獲得に大きな役割を担った。「いつかはクラウン」と言われ、あこがれの存在にもなった。

「日本にモーターゼーションを興す」という強い思いのもとで66年に発売したのが「カローラ」。狙い通りモーターゼーションをけん引し日本を代

表する大衆車となった。これ以降、工場建設を矢張り早に行うとともに車種も急速に拡充していった。82年、長年の悲願だったトヨタ自動車工業とトヨタ自動車販売(現トヨタ自動車)の合併、いわゆる「工販合併」を実施した。そして日米通商摩擦が深刻化する中、米国内での現地生産を決定する。84年に米ネパル



長年の悲願だった「工販合併」の調印式

モーターズ(GM)との合併工場「NUMMI」を米カリフォルニア州に設立。次いで86年には米ケンタッキー州とカナダ・オンタリオ州に単独での工場進出を果たす。トヨタは海外工場でも「トヨタ生産方式」を根付か

せていった。「世界のプレミアムブランドに負けられないフラッグシップカーをつくらうよ」。89年には北米で高級車「レクサス」を発売した。レクサスはその後、日本を含む世界各地で導入。最近ではレクサスシリーズを象徴する前面デザイン「スピンドルグリル」を採用しデザインを一新するなど大胆な展開で海外の高級車ブランドを追い上げる。



米GMとの合併工場「NUMMI」のラインオフ式



日本のモーターゼーションをけん引したカローラ

2000年代に入り、北米を中心にグローバルで生産・販売が急速に拡大した。北米をはじめ、東南アジア各地でも工場を建設。成長市場の新興国では戦略車「IMV」を投入し、ヒットさせた。急成長を続けるトヨタ

にもHVを展開。今ではHVは日本のエコカーの代名詞となり、普及期に突入している。トヨタのエコカーはHVだけではない。トヨタはエコカーについて全方向位で取り組み姿勢を打ち出している。プラグインハイブリッド車(PHEV)や電気自動車(EV)を投入しているほか、「究極のエコカー」と言われる燃料電池車(FCEV)の開発も進めている。

さらには11年に起こった東日本大震災、タイ洪水ではサプライヤーからの調達網が寸断し、一時、車両組み立てができない状況に陥った。円高も進み、国内生産をどう守るかという難題にも直面した。

しかし、こうした時期に経営体質を強くし、14年3月期連結決算では完全復活を遂げた。過去最高の営業利益を記録し、グループ世界販売台数も前人未踏の1000万台を超えた。

クルマで笑顔をひろげたい。



使いやすさで笑顔をひろげる。タントに込めたダイハツの想いです。

もっと軽にできること。DAIHATSU

宇宙船のシートをつくる。そんな日が来るかもしれない。



内装システムのリーディングカンパニーとして、トヨタ紡織の乗り心地に対する取り組みは、乗用車の世界から、モータースポーツ、鉄道、そして家の中まで、いろいろな空間の快適に広がっています。

想像は、いつか実現できる。私たちの挑戦はまだ続きます。



シート、ドアトリム、エアクリナー、ハイブリッドシステム用モーターコア構成部品、花菱新幹線グランクラス搭載シート、住宅用内装面装飾材「ヌカバ」

トヨタ紡織

世界の道で、乗る人の「うれしさ」を学び続ける。



そのクルマは、ヨーロッパの石畳を走るかもしれない。そのクルマは、灼熱の砂漠を走るかもしれない。そのクルマは、極寒の凍結路を走るかもしれない。アインシ 精機、特殊試験路。ここには世界のあらゆる道がある。どんな環境でも満足してもらえる一台のために、このテストコースでコンピュータで究めた製品を、さらに、乗る人の気持ちになって鍛えあげていく。すべては、クルマの部品やシステムの開発段階から、乗る人の「うれしさ」を学び、求められているものをカタチにするために。

AISIN One Team, Best Future

アイシン精機株式会社 〒448-8650 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地 www.aisin.co.jp

豊田通商株式会社

現地に学び、現地で成長する。

豊田通商の活躍フィールドは広大。長年にわたるモビリティ分野での経験・ノウハウを活かし、ライフ&コミュニティやアース&リソースの分野でも現地社会に貢献しています。私たちは現地と生きる「価値創造商社」です。

GLOBAL 2020 VISION

TRY 1

Life & Community, Earth & Resources, Mobility

3つの分野で事業の柱を確立し、事業シナジーを創出。



今日も、クルマが、走っている。地球の果てまで、クルマが、走っている。

DENSO www.denso.co.jp

もう、これ以上、自然を汚してはならない。もう、この惑星を傷つけてはならない。クルマが、地球とともに生きてゆくために。そこには、デンソウの環境テクノロジー。たとえば、ハイブリッド技術や、エンジンの効率アップ、バイオなど、クリーンエネルギーの開発。地球がずっと、つづくために。

この惑星を、技術で守りたい。



自然と暮らしにつながる、モノづくり。



街や暮らしの、多彩なシーンに息づく技術。ページをめくると、豊田自動織機がそこに。

豊田自動織機 TOYOTA INDUSTRIES

www.toyota-shokki.co.jp